

7 その他

1) 野ねずみ、もぐら、鳥類の防除法

(1) 野ねずみの防除法

イ) 耕種的防除

- ・田畑や畦畔、農道、休耕田、堤防等の雑草を刈り取り、野ねずみが生息しにくい環境とする。
- ・ねずみ類の天敵を保護する。

ロ) 物理的防除

- ・穀物倉庫等では捕獲器や粘着テープ等を仕掛けて捕獲する。

ハ) 殺そ剤による防除

(イ) 各種動物に対する留意点

- ・殺そ剤であるりん化亜鉛は、哺乳動物であるねずみに対して致死効果がある薬剤であるため、ねずみ以外の哺乳動物等の二次中毒（イヌ、ネコ、トリ等）の可能性が高い。
- ・広域一斉防除を行う場合は、天敵などの野生動物やペット・家畜等に危害が及ばないように適切な薬剤を選択し、適正な方法で使用する。

製品別半数致死量（単位 g）（大塚薬品工業(株)HPより）

動物(体重)	ねずみ (0.25kg)	ネコ (2.5kg)	イヌ (5.0kg)	トリ (1.0kg)	ブタ (100kg)
製品名					
ヤソヂオン*1	16～25.5g	735g	300～750g	>40kg	300kg
粉末ラテミン*2	0.4～1.5g	1.5～10g	10～25g	94g	10～50g
強力ラテミン*3	0.3～0.6g	1.8～3.3g	3.3～6.6g	0.3～1.3g	66.7～133g
ラテミンリン化亜鉛 1%*3	1～2g	5～10g	10～20g	1～4g	200～400g

*1：有効成分 ダイファシノン

*2：有効成分 ワルファリン

*3：有効成分 リン化亜鉛

※上記致死量データは各種文献より抜粋して編集してある。ブタに対しての致死量は想定換算により算出しており正確な値ではない。

(ロ) 殺そ剤

適用場所	薬剤名・有効成分	使用量	使用方法
農地	ヤソヂオン (ダイファシ)	200～300g/10a	<p>【手まきによる防除】</p> <p>○本剤 10～20g をそのまま、あるいは 10～20g の小袋詰をそ穴に投入するか、野その通路に配置する。また休耕地等は 10m×10m の格子状に本剤をそのまま、あるいは 10～30g の小袋詰を 1 か所 20～30g の割合で適宜配置する。</p> <p>○本剤 5g をそのまま、あるいは 5g の小袋詰をそ穴に投入するか野その通路に配置する。また、果樹園、桑園等は 5m×5m 又は 4m×4m の格子状に 1 か所に本剤 5g をそのまま、あるいは 5g の小袋詰を 1 袋配置する。</p> <p>【ベイトボックスによる防除】</p> <p>○10a 当たりベイトボックス約 4 個を適宜配置する。1 個あたり本剤 50g～70g を使用する。</p>
農地 山林	粉末ラテミン (ワルファリン)	—	○本剤 1g に対し穀粉など 4g の割合でおすすめ、250～750g/10a の割合で使用する。1) 5～20g をそのまま、又は紙等で包み、そ穴に投入する。2) 10～100g をベイトボックスに入れ適宜配置する。
農地 山林	クマリン (ワルファリン)	300～600g/10a	○本剤 20g を入れた防湿性小袋をそのままねずみの通路に配置する。又は給餌器に入れ、ねずみの出沒する場所に配置する。なくなったら補充して、4～5 日間連続投与する。
農地 山林	強力ラテミン (リン化亜鉛)	そ穴 1 か所当たり 1～2g (15～30 粒)、 または 30～150g/10a	<p>【手まき】</p> <p>○そ穴 1 か所当たり 1～2g (15～30 粒) をそのまま、あるいは小袋詰を投入する。</p> <p>○造林地及びその周辺 30m に 10m×10m 又は 5m×5m の格子状に 1 か所あたり本剤 2～3g を配置する。</p> <p>【ベイトボックスによる防除】</p> <p>○10a 当たりベイトボックスを 4～5 個そ穴のある場所に配置する。</p>
農地 山林	ラテミンリン 化亜鉛 1% (リン化亜鉛)	300～600g/ha	<p>【そ穴投入法】</p> <p>○本剤 1～2g (10～20 粒) をそのまま、あるいは小袋詰をそ穴に投入する。</p>
		600～ 1,200g/ha	<p>【定点配置法】</p> <p>○本剤を約 4×4m の格子状に 1 か所当たり 1～2g をそのまま、ま</p>

			たは小袋詰を配置する。
		800～1,500g/h a	【ベイトボックスによる防除】 ○10a 当たり 4～5 個のベイトボックスをそ穴のある生息場所に配置する。ベイトボックス 1 個当たり本剤を 20～30g 使用する。
農地 山林	Z・P (リン化亜鉛)	30～500g/10a	○定点配置、そ穴投入、バラまき等をする。
農地 山林	Z・P 1.0 0 (リン化亜鉛)	50～200g/10a	○本剤を 3～5g 紙づつみ、またはそのままそ穴に投入するか、10a 当たり 10～40 か所に適宜配置する。山林では、ばらまき(手まき)、定点配置する。
倉庫*4	粉末ラテミン (ワルファリン)	—	○本剤をそのまま 50～100g/33 m ² の割合で、または、本剤 1g に対し穀粉など 4g の割合でうすめたものを 250～500g/33 m ² の割合でネズミの出入口、通路等に配置する。

*4：適用作物 貯蔵穀物等

- 駆除作業は、田畑などの一端から一列に並んで進み、ねずみ穴を見落とさないようにし、なるべく大面積を一斉に行う。(上記の(イ)各動物に対する留意点を参照)
- 殺鼠剤を入れたベイトボックスは枯草、わら等で隠れる程度に被覆しておく。
- 人畜に有害な薬剤が多いので、危害防止に努め取扱いや保管に留意する。また、残った毒餌や空容器等は適切に処理する。
- リン化亜鉛剤(ラテミンリン化亜鉛 1%、Z・P 等)は酸類が作用すると有害なリン化水素を発生するので絶対に近づけない。

(2) もぐらの防除法

イ) 捕獲器による捕獲

- ・もぐらの通り道に捕獲器を仕掛ける。
- ・土が盛り上がった部分はおもぐらの通り道ではない。ここから斜め下方に走るトンネルがあり、これに沿って進むと 20～30cm の深さに水平な本道があるので、この部分まで掘って捕獲器を仕掛ける。
- ・人間の臭いが捕獲器や土につくと捕獲効率が低下するので、必ず手袋を着用する。

ロ) 音響による追い払い

- ・もぐらは音に対して敏感であり、風車等により音響を土中に伝える装置を利用して追い払う。

(3) 鳥類の防除法

イ) 耕種的防除

- ・集団栽培や一斉播種により被害の分散を図る。

ロ) 物理的防除

- ・小規模ほ場や果樹栽培では、作物を防鳥網で囲うことによる被害防止効果が高い。
- ・爆音機等の聴覚を刺激する機器、目玉風船やカカシ、防鳥テープ等の視覚を刺激する機器、視覚と聴覚を同時に刺激する機器（ラゾーミサイル等）を用い、ほ場から鳥類を追い払う。長期間使用すると慣れが生じるので、複数の方法を組み合わせることや機器の設置場所を時々変えるなどの工夫が必要である。
- ・爆音機は、周囲の住民に迷惑にならないように十分注意する。

ハ) 忌避剤による防除

鳥名	薬剤名・有効成分	FRACコード	作物名	使用時期	使用回数	使用方法
ハト	キヒゲン (チラム)	M3	とうもろこし、えだまめ、だいず、飼料用とうもろこし	播種前	1回	乾燥種子重量の1%量を種子粉衣する。
	キヒゲンR-2 フロアブル (チラム)	M3	稲、麦類、いんげんまめ、えんどうまめ、豆類(未成熟)、豆類(種実ただしんげんまめ、えんどうまめを除く)、ひまわり、雑穀類(とうもろこしを除く)、とうもろこし、飼料用とうもろこし、ソルガム	播種前	1回	乾燥種子 1kg 当たり原液 20mL を塗沫処理する。
カラス	キヒゲン (チラム)	M3	とうもろこし、飼料用とうもろこし	播種前	1回	乾燥種子重量の1%量を種子粉衣する。
	キヒゲンR-2 フロアブル (チラム)	M3	稲、いんげんまめ、えんどうまめ、豆類(未成熟)、豆類(種実、ただしんげんまめ、えんどうまめを除く)、ひまわり、雑穀類(とうもろこしを除く)、とうもろこし、飼料用とうもろこし、ソルガム	播種前	1回	乾燥種子 1kg 当たり原液 20mL を塗沫処理する。

スズメ	アンレス (チウラム)	M3	稲	播種前	1回	10倍液に種籾を1~2分浸漬し、風乾後に播種する。
	キヒゲンR-2 フロアブル (チウラム)	M3	稲、麦類、雑穀類（とうもろこしを除く）、とうもろこし、飼料用とうもろこし、ソルガム	播種前	1回	乾燥種子1kg当たり原液20mLを塗沫処理する。
ムクドリ	キヒゲンR-2 フロアブル (チウラム)	M3	ひまわり、雑穀類（とうもろこしを除く）、とうもろこし、飼料用とうもろこし、ソルガム	播種前	1回	乾燥種子1kg当たり原液20mLを塗沫処理する。
キジ	キヒゲン (チウラム)	M3	とうもろこし、飼料用とうもろこし	播種前	1回	乾燥種子重量の1%量を種子粉衣する。
	キヒゲンR-2 フロアブル (チウラム)	M3	麦類、雑穀類（とうもろこしを除く）、とうもろこし、飼料用とうもろこし、ソルガム	播種前	1回	乾燥種子1kg当たり原液20mLを塗沫処理する。